

令和5年6月定例会の代表質問では、「洋上風力発電推進の意義と県民の理解」「地域医療構想の推進および新たな構想」「酒田港の基地港湾指定に向けた取り組み」など、喫緊の課題について議論を深めました。



いわゆる「卒原発」の提唱です。

そして、2030年度(令和12年度)には、風力や太陽光など再生可能エネルギーをもって原発一基分に相当する101.5万kWという開発目標に向かって進めています。令和3年度末現在の目標に対する進捗状況は、電源が58.4万kW、熱源が6.9万kW、合計で65.4万kW(64.4%)で、順調に推移していると認識しています。しかし、風力発電の2030年度の開発目標45.8万kWに対しては、令和3年度末8.2万kW(17.9%)の進捗率です。こうした状況で、現在、遊佐町沖および酒田市沖における洋上風力発電事業の取り組みが進んでいます。

令和5年4月の県議会議員選挙において「鳥海山沖洋上風力発電を考える会」から酒田市・飽海郡区の立候補者に、公開質問状が届きました。質問は、遊佐町沖、酒田市沖の洋上風力発電事業を推進すべきかなどの4項目で、選択肢と自由記述欄がありました。そこで私は、「卒原発」に賛同し、原発再稼働に反対する立場を明確にしたうえで、洋上風力発電事業は推進すべきとして「私たちは、産業革命以降の化石燃料による近代化のなかで、物質的な豊かさを享受してきたことが原因で、地球環境破

壊が進行していることを、次の時代を生きる世代へつげを回すことは、許されないと考えます。(中略)私も皆様と同じく、日本海に沈む夕日の美しさをこよなく愛する一人です。しかし、安全な処理方法もない原発再稼働を許すこともできません。地球温暖化を今止めないと次の時代が立ち行かないとすれば、今を生きる私たちが「がまん」する必要があるのではないのでしょうか」と書かせていただきました。

「鳥海山沖洋上風力発電を考える会」の皆様のように、洋上風力発電事業に意見を持つ県民も多くいらっしゃると思います。一方で、県の風力発電に関する経過には、庄内海浜県立自然公園内で稼働する風力発電計画において、地域の理解を得るために、運転開始が計画より相当遅れてしまった教訓もあります。様々な意見調整で、お互いに100%納得できる結果を導き出すことの難しさはあるものの、現段階での最善を導き出すために十分に意見を聴く必要があります。また、目標実現に向けては、あらゆる協議をスピーディに進めることが求められていると思います。

「ゼロカーボンやまがた2050」実現に向けた洋上風力発電推進の意義と、県民の理解を得ながらど

う取り組んでいくのか、環境エネルギー部長に伺います。

環境エネルギー部長／答弁

近年、集中豪雨などの気象災害が頻発・激甚化しており、その一因とされる地球温暖化の対策として、カーボンニュートラルを目指す動きが潮流となっています。政府は、脱炭素化に向けて再生可能エネルギーを最大限導入することとし、エネルギー基本計画などにおいて、洋上風力を再エネの主力電源化の切り札と位置付け、その導入を国策として進めています。

県は、令和2年8月に「ゼロカーボンやまがた2050」を宣言し、令和3年3月に策定した「後期エネルギー政策推進プログラム」において、洋上風力発電事業の展開促進を盛り込みました。洋上風力発電は、新たな産業、雇用、観光資源の創出など、地域活性化の起爆剤になり得るため、遊佐町沖および酒田市沖への導入に向け、令和5年度は副知事トップのもと5人の関係部長が「洋上風力推進監」の任命を受け、関係部局が一体と

なって取り組みを進めています。

遊佐町沖は、騒音や景観、漁業への影響など様々な声に丁寧に対応しながら、検討を進めました。令和5年3月に、地元関係者などによる法定協議会にて、持続可能で魅力あるまちを次の世代に継承することを目的に、全国でも先駆的な洋上風力発電事業を通じた遊佐地域の将来像を取りまとめ、促進区域指定に向けた手続きに入ることの合意がなされました。促進区域指定後、公募により選定される事業者には、将来像の実現と、地域の不安の声にもしっかり対応するよう求めていきます。また、酒田市沖は、部会での議論を経て、有望な区域への選定に向けたプロセスに進むことの理解がなされており、引き続き酒田市と連携し、漁業者や地域の理解促進を図ります。

今後も、漁業との共存、地域との共生を目指した「地域協調型」の洋上風力発電の導入、ひいては、カーボンニュートラルの実現に向けて、丁寧かつ着実に取り組んでいきます。

持続可能な地域医療体制を確保するための地域医療構想の推進と新たな構想について

令和5年6月26日(月)／代表質問

石黒党議員／質問

令和4年3月に厚生労働省から地域医療構想の進め方についての通知がなされ、都道府県において第8次医療計画(2024年度～2029年度)の策定作業が進められる際に、2022年度および2023年度において地域医療構想に係る民間医療機関も含めた各医療機関の対応方針の策定や検証・

見直しを行うこと。その際、新型コロナウイルス感染症拡大により病床の機能分化・連携などの重要性が改めて認識されたことを考慮すること。また、2024年度より医師の時間外労働の上限規制、いわゆる医師の働き方改革を遵守することなどが求められています。

また、総務省は公立病院経営強化について「持続可能な地域医

県民の生命と心安らかな暮らしを守るために



令和4年12月26日(月) 県政クラブの豪雪対策本部立ち上げ会議に出席(山形市) 行政執行部から状況をヒアリングして正式に対策本部を設置。情報収集と県民の皆様に必要な対策を迅速に進めます。



令和5年1月11日(水) 県民の方からの要望があった現地調査(酒田市) 県民の方から現地を見てほしいと言う要望がありましたので、県営アパートの現地調査に立ち合いました。



令和5年1月29日(日) 無火災を祈念する酒田市出初式に出席(酒田市) 防災意識の高揚と無火災を祈念する消防出初式。終了後、寒ダラ汁を食べるために並びましたが、食べられませんでした。



令和5年2月4日(土) 県立酒田光陵高校情報科IT-ACE発表会に出席(酒田市) 「DXでデラックスなミライニを未来に」 「簡単筋トレAR」などのIT-ACE発表に、ついでいけなくなる私が居ました。



山形県・令和5年度当初予算の主な事業④

健康福祉部 ● 企業などとの連携による障がい者の賃金向上の実現(①共同受注センターによる取引輪旋・紹介②「ふれあいパートナーシップ企業」の募集など)……3,535.5万円 産業労働部 ● 中小企業パワーアップ補助事業(①イノベーション創出支援事業②DX・GX支援事業③観光施設経営強化支援事業など)……4億1,879.9万円 産業労働部 ● 企業立地促進事業費(①企業立地促進補助②ソフト産業立地促進補助)……23億5,094.2万円